

平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

苫小牧市立青翔中学校

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 子どもの体力が低下している状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の対象

- 中学校第 2 学年の全生徒

(3) 調査の内容

- ① 生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
 - ・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（20m シャトルラン）、50m 走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
 - イ 質問紙調査
- ② 学校に対する質問紙調査

(4) 調査の方法

- 悉皆調査

(5) 調査の実施期間

- 平成 29 年 4 月から平成 29 年 7 月までの期間で実施

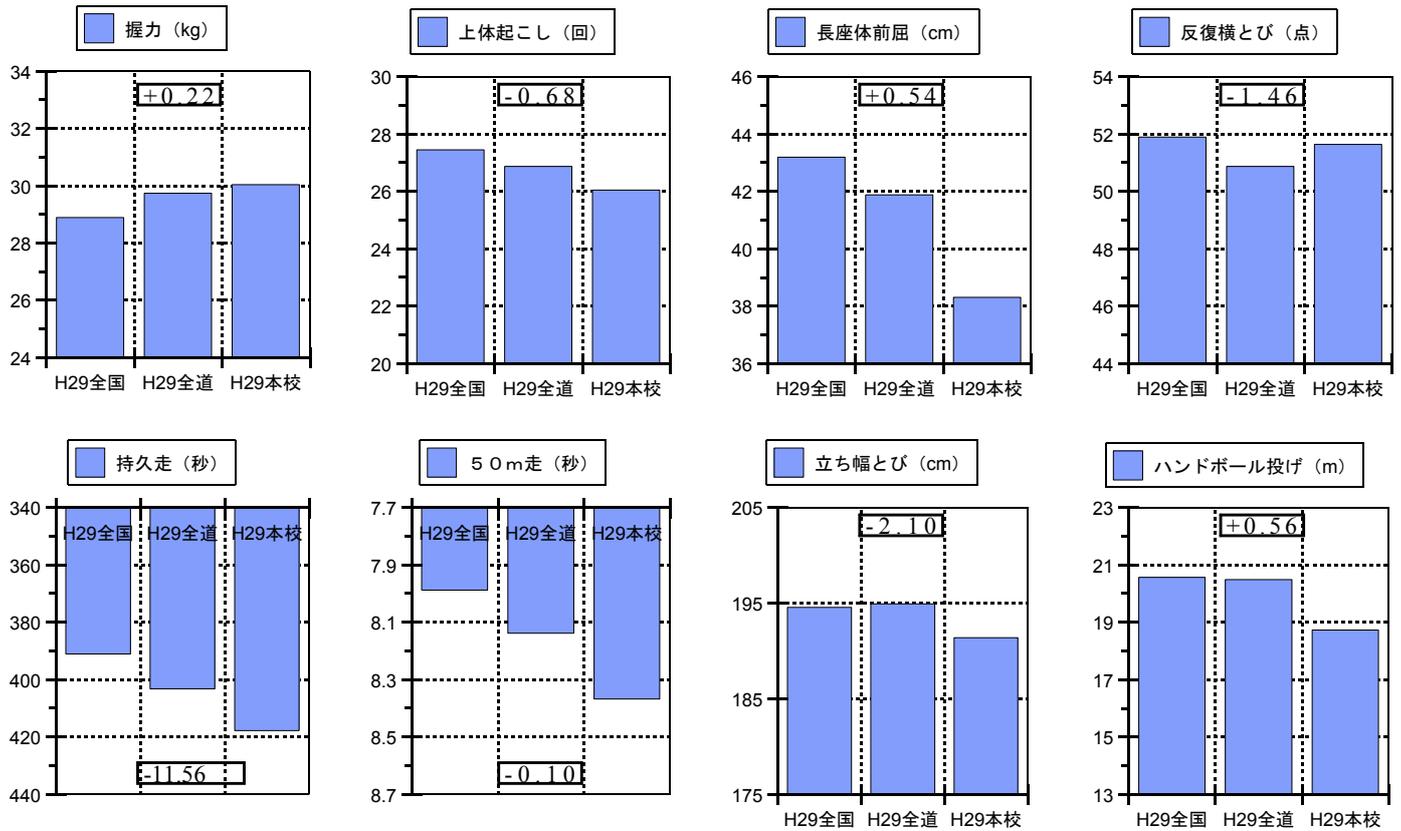
(6) 調査実施生徒数

- 男子 99 人、女子 111 人（計 210 人）

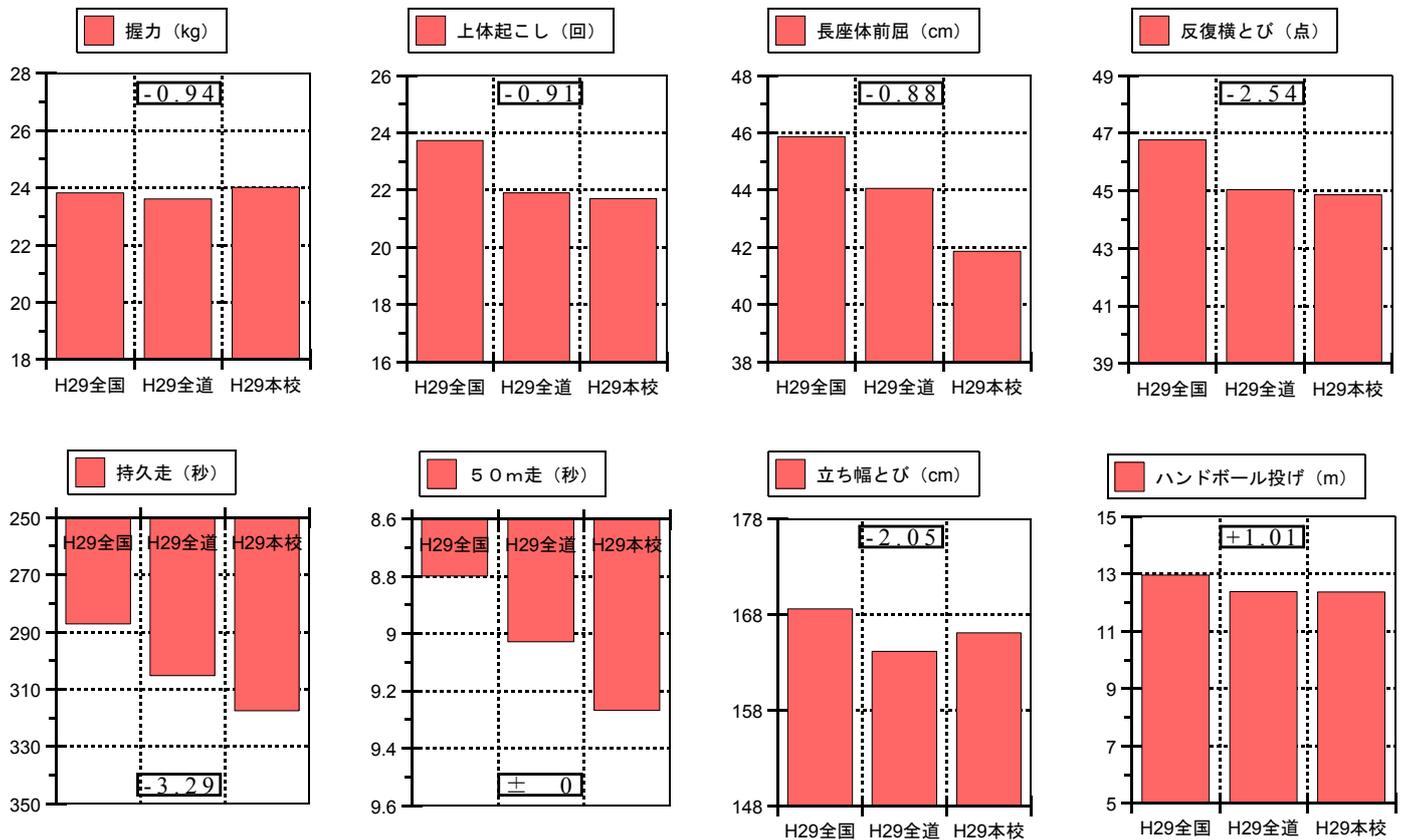
2 実技に関する調査

※「+」「-」で示してある数値は、本校のH28年度との比較。
+は今年度の数値の方が高いことを示す。「持久走」「50m走」の+は、「昨年度より早くなった」という意味。

【中学校2年生男子】



【中学2年生女子】



3 体格と肥満度に関する調査

【中学2年生男子】

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長 (cm)	体重 (kg)	肥満 (%)	正常 (%)	痩身 (%)
H29 全国	159.98	48.58	7.6	89.8	2.5
H29 全道	161.23	50.55	10.6	87.0	2.4
H29 本校	160.42	48.90	7.1	88.9	4.0

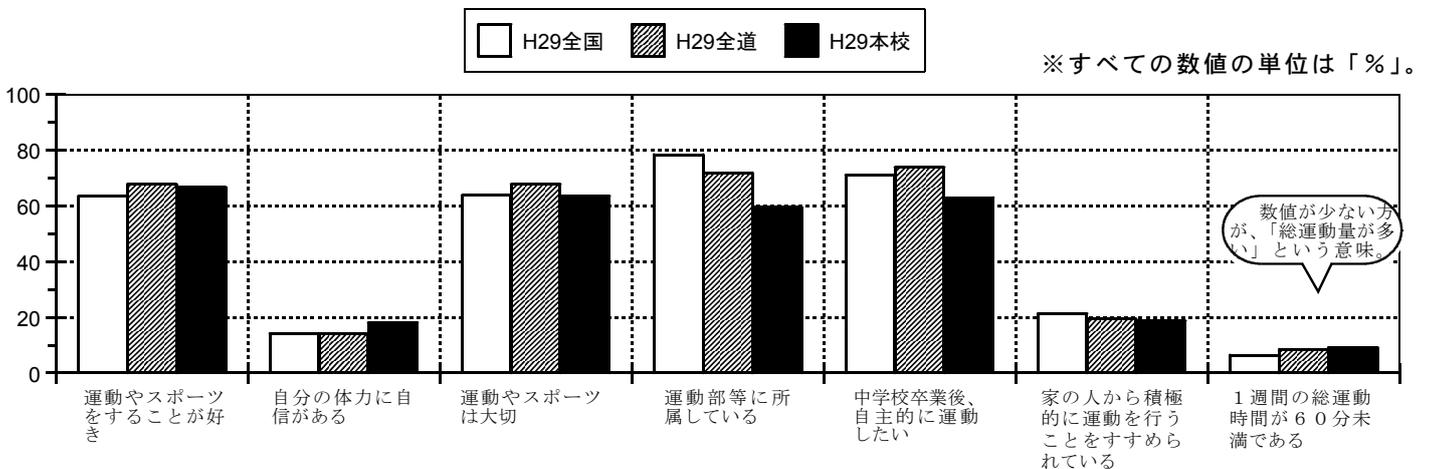
【中学2年生女子】

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長 (cm)	体重 (kg)	肥満 (%)	正常 (%)	痩身 (%)
H29 全国	154.87	46.71	6.6	89.6	3.9
H29 全道	155.27	47.45	8.1	88.3	3.6
H29 本校	155.60	46.86	3.8	89.8	6.5

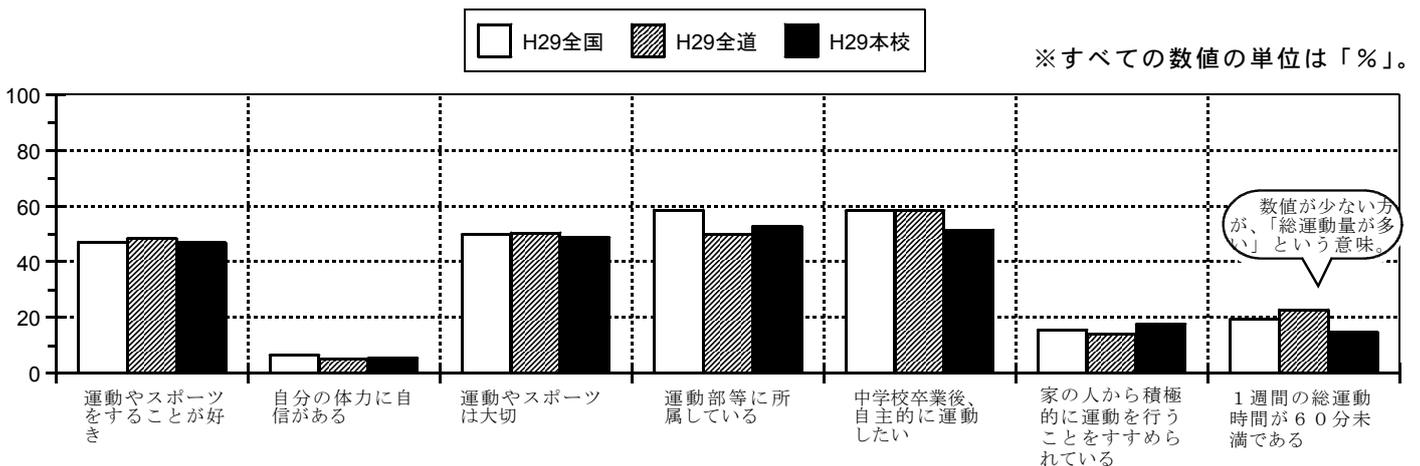
4 生徒質問紙調査

(1) 運動習慣等の状況

【中学2年生男子】

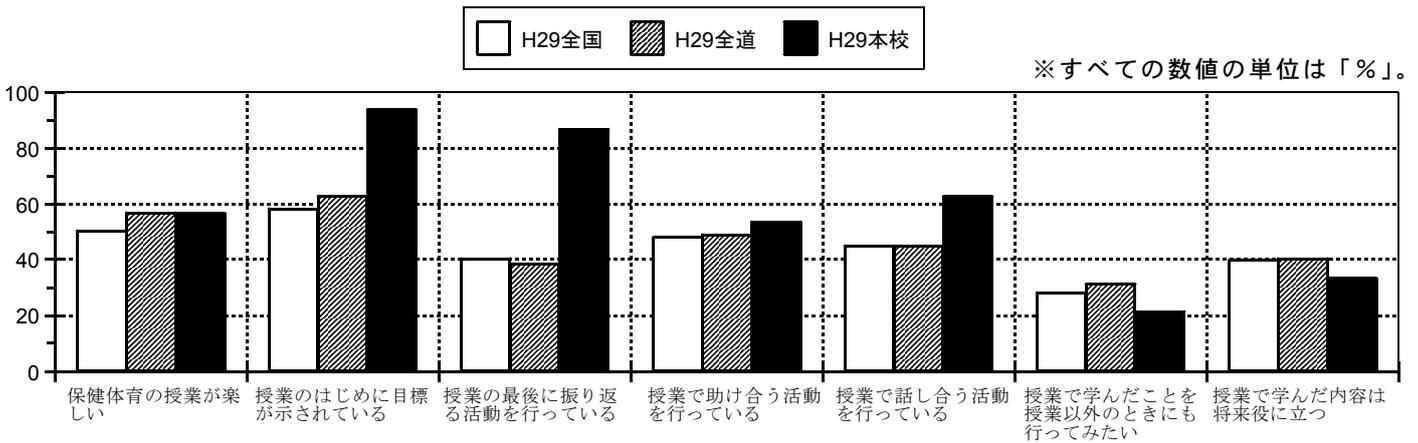


【中学2年生女子】

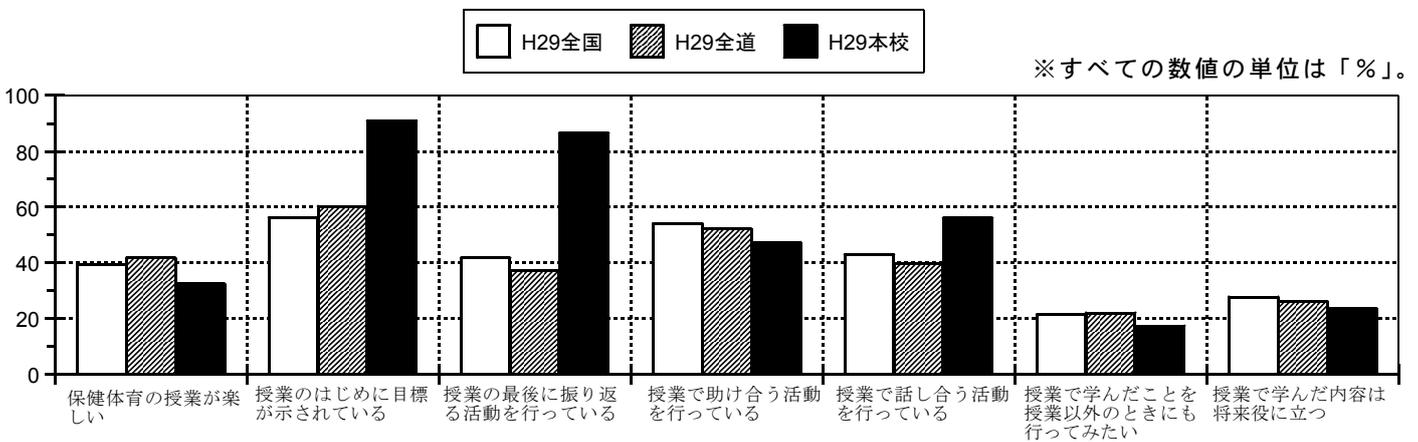


(2) 保健体育授業の状況～授業に対する意識～

【中学2年生男子】



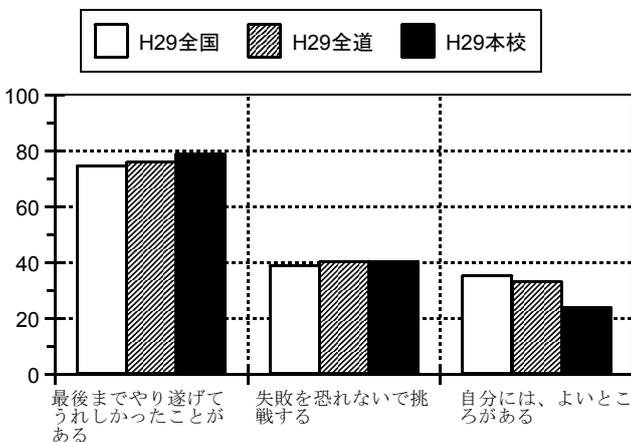
【中学2年生女子】



(3) 自尊意識

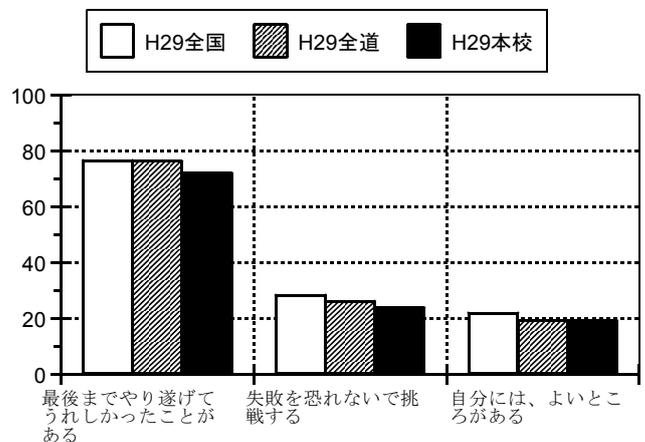
【中学2年生男子】

※すべての数値の単位は「％」。



【中学2年生女子】

※すべての数値の単位は「％」。



5 実技に関する調査

【中学2年生男子】

- 「握力」は、全国・全道平均を上回っている。
- 「反復横とび」は、全道平均を上回っている。
- 課題種目として、「持久走」「50m走」「ハンドボール投げ」が考えられる。
- ◇ 同一集団の比較（1年生時の記録と2年生時の記録の比較）において、すべての種目の記録が大きく向上している。

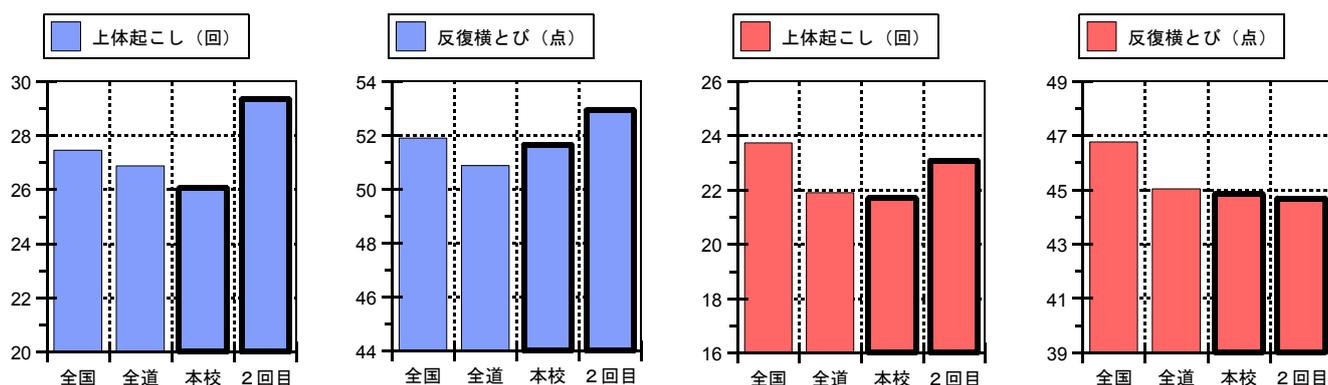
【中学2年生女子】

- 「握力」は、全国・全道平均を上回っている。
- 「立ち幅とび」は、全道平均を上回っている。
- 課題種目として、「長座体前屈」「持久走」「50m走」が考えられる。
- ◇ 同一集団の比較（1年生時の記録と2年生時の記録の比較）において、すべての種目の記録が大きく向上している。

- ・ 同一集団の比較（1年生時の記録と2年生時の記録の比較）において、すべての種目の記録が大きく向上していることから、実技調査の結果は良好であると言える。
- ・ 今後の体育の授業において、単元の指導計画の中に、上記の課題種目の克服に関わる補強運動を内容（実施種目等）との関連において実施していくことが重要であるとする。
- ◆ 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（平成29年4月～7月）の結果を踏まえ、男女とも2種目を取り上げ、再度調査した結果（平成30年度1月～2月）が次のとおりである。

【中学2年生男子】

【中学2年生女子】



6 体格と肥満度に関する調査

- 男女とも、体格（身長・体重）において、全国・全道平均との大きな差異は見られない。
- 男子は、全国・全道平均との比較において、痩身傾向の生徒がやや多い。
- 女子は、全国・全道平均との比較において、肥満傾向の生徒が少なく、痩身傾向の生徒がやや多い。
- 総括として、体格等において、全道・全国平均から見ても、本校の生徒は良好な状態にあると言える。

7 生徒質問紙調査

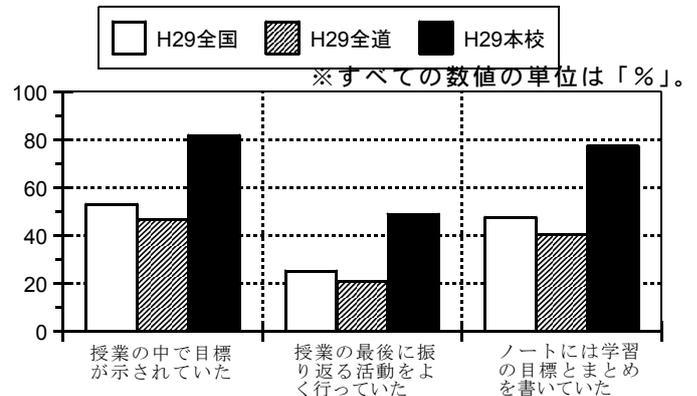
(1) 運動習慣等の状況

- 男子は、全国・全道との比較において、「運動部等に所属している」と回答している生徒の割合が低く、「自分の体力に自信がある」と回答している生徒の割合がやや高いが、全般的に大きな差異は見られない。
- 女子は、全国・全道との比較において、「中学校卒業後、自主的に運動したい」と回答している生徒の割合がやや低い、全般的に大きな差異は見られない。

(2) 保健体育授業の状況～授業に対する意識～

- 特質すべき点として、男女とも、全国・全道との比較において、「授業のはじめに目標が示されている」「授業の最後に振り返る活動を行っている」と回答している生徒の割合が著しく高く、「授業中で話し合う活動を行っている」と回答している生徒の割合も高い。
- 男女とも、全国・全道との比較において、「授業で学んだことを活用したり、将来役立てようと考えたりする」と回答している生徒の割合は、やや低い傾向にある。

・「目標の明示」及び「振り返る活動」については、平成29年度全国学力・学習状況調査（対象；3年生）の生徒質問紙調査からも右記のような結果が出ていることから、本校で取り組んでいる「授業の焦点化」「授業のイメージ化」「授業の可視化」（SEISHO STANDARD；共通授業スタイル）が浸透していることがうかがえる。



保健体育科の授業では、上記の取組の質的向上を目指していく中で、次の3点を重点化し、授業改善を推進する。

- ・「実技調査」で明らかになった課題種目を補強運動等の中で強化していく。
- ・生徒自身において、授業の流れを意識できるように、授業導入時の「課題の確認」を工夫するとともに、運動量の確保を目指す。
- ・自己の記録の変化などを明示し、生徒自身において達成感をもたせるのと同時に、保健分野の指導の充実など、実生活に生きる授業を実践する。

(3) 自尊意識

男女とも、全国・全道平均との大きな差異は見られないが、「自己肯定感」を高めていくことが、本校の目指す子ども像であることから、特に「最後までやり遂げてうれしかったことがある」「自分には、よいところがある」と回答する生徒の割合を高めていきたいと考える。